

# 第4回 諫早市総合計画審議会 会議記録

日 時：平成27年9月24日（木）  
午後1時30分～3時00分  
場 所：諫早市役所5階 大会議室

## 《 会 議 次 第 》

- 1 開会（進行：政策振興部次長）
- 2 会長あいさつ（黒田会長）
- 3 前回審議会等に対する意見（進行：黒田会長）
  - ・諫早市総合計画審議会等にかかる御意見  
事務局から別添資料により説明
- 4 議題（進行：黒田会長）
  - （1）諫早市総合計画の体系図（案）について
    - ・将来像を実現するための政策施策体系図（案）  
事務局から別添資料により説明
- 5 その他
- 6 閉会

<意見交換>要旨

(会長)

委員の皆様こんにちは。御多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、合同会議ではなく、時間帯を分けましてそれぞれ議論してまいりたいというふうに思っております。

総合計画では、前回に引き続きまして総合計画の体系図（案）としまして、将来都市像等について議論してまいりたいと思います。皆様の活発な御意見で有意義な会議になりますことをお願いいたしまして、御挨拶といたします。よろしくをお願いいたします。

それでは、議題に入ります前に、前回の審議会に際しましての意見等につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

～事前配付の資料No. 1により、総合計画審議会等にかかる  
御意見について説明～

(会長)

それでは、ただいまの事務局の説明に対しまして、何か御質問等はございませんでしょうか。御質問よろしいですか。それでは次第に沿って早速会議を進めてまいりたいと思います。

会議次第4の議題（1）諫早市総合計画の体系図（案）についての将来都市像につきまして、前回に引き続き御審議をお願いしたいと存じます。なお、本日、将来都市像につきましては、皆さんの御意見を取りまとめたみたいというふうに思っております。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

～事前配付の資料No. 2により、諫早市総合計画の体系図（案）の  
将来都市像について説明～

(委員)

最初の会議から思っているが、行政側に「ひとが輝く創造都市・諫早」に思い入れがあるように思えてしかたない。市民の意見にもあったが、10年間やってみてその総括はやれたのか？

(事務局)

個別の事業が300程ある。現在各部局において検証を行っている。集計中であるので集計が終わりましたら報告、公表も考えている。

(委員)

諫早の情報発信力が少ないように私は個人的に思う。大村の方が情報発信力はある。諫早市がはるかに素晴らしいと思うが、どうも情報発信力というキャリアシップが諫早はもう少し何とかならないものかと思う。人口問題でも大村は生き残る。土地代が安いとか住みやすいとか客観的に評価として出ている。そのためには、スローガンを見直した方が良いと思う。

(事務局)

案を10個示している。今の将来都市像にこだわりがある訳ではない。前回の審議会の中で、「人が輝くというのは非常に良い」とか「創造都市は大事」とか、「今後10年も同じ都市像を目指して良いのでは」とのご意見をいただいたので、そのようなご意見を中心に案として作っている。これ以外で良いものがあればそれでも良いと思う。また、広報が下手とのことだが、前々回の審議会でも大村との比較があったので、今回の総合計画では、シティプロモーションに力を入れる必要があるのではと事務局でも話している。

(会長)

将来都市像は企業で言えば企業理念である。どういう会社にするのかなど抽象的にならざるを得ない。そこでより具体的になってくるのはこの後の基本目標などである。情報発信力、広報活動は、これから諫早市は力を入れる必要がある。資料の7ページにもあるように、計画実現に向けた基本姿勢として、行政の中で広報力は具体的に謳う必要があると思う。総括の方は、行政の方で行っていただいているが、さらに今後は実施項目の評価についても具体的にできるような体制にしていく必要がある。そのような中で将来都市像は抽象的にならざるを得ないと思う。これがよいと思うのがあればお願いしたい。

(委員)

これまで10年間やってきたものを今後10年も継続して続けることで何か見出せるものがあるのでは。そのまま良いと思う。

(委員)

前回同様、「ひとが輝く創造都市・諫早」という言葉が大好きです。10年で完成するものと、そうでないものもある。まちが一番良い状態であることは市民が自立し輝いていることだと思う。この言葉で良いと思う。委員からの意見もあるように、サブタイトルをつけた方が皆さんの意見が考えられるのではと思う。

(会長)

サブタイトルをつけるとしたらどうか、例えば②案をつけるとしたらどうか「安心と希望・住みやすいまちを目指して」とかどうか。

(委員)

②案よりも、⑦から⑩の中から、選んだ方が良いのでは。

(委員)

人が主役である。ソフト面をしっかりとっておけば底辺が広がり頑丈な都市づくりになる。ひとが輝こうとのことで前回設定された。サブタイトルをつけるのは非常に良い。教育と福祉だと思う。⑦が良い希望と安心、希望を持たないと生きていけない、活動ができない。安心・安全できるような環境をつくらないといけない。自然災害もたくさん起きている。支援、支援と言って助けばかり、人頼みばかりする、福祉はギブ&テイクである。自立できる人間を目指さないといけない。⑦が輝いている。

(会長)

⑩として「希望と安心・住みやすいまちを目指して」も出て（後方のスクリーンに）おります。

(委員)

⑨が良い。シンプルが良い。具体的なものを挙げてくるとくどくなる。大きな目標、指針となるので、シンプルなものの中にも大きいものをとらえる。後の基本目標などで具体的にしていくものである。

(委員)

サブタイトルはあった方が良いと思う。わかりやすく説明するとしたら⑧であるので良いと思う。

(会長)

⑩も出ているので参考にさせていただければ、①のサブタイトルとして②を入れ込んでいるもの。

(委員)

⑧だけふるさとが入っている。10年後も20年後もずっと一人ひとりの心の中にはふるさとが残っていくのであれば⑧が良い。

(委員)

資料をいただいて最初に見て思ったのは、サブタイトルがあった方がわかりやすいと思った。ひとが輝く部分でどう輝けば良いのかなど。基本目標とかがあるのも具体的に出すと分かりにくくなるので、個人的には教育、ひとを育てる部分がこれから大事かなと思う。

(会長)

どれが良いのか。

(委員)

全部ほしくなる。まとめる自信が無い。

(委員)

いずれも甲乙つけ難い。一番ハードルが高いと思うのが、「住みやすさ全国一を目指すまち」めちゃくちゃハードルが高い。これを取り組むとした場合、第2、第3弾とすごくたくさんの方が考えられて創造都市にあっているのでは。ハードルが高いので⑩かなと思う。

(委員)

希望が大事。希望と安心これは絶対必要である。「ひとが輝く創造都市・諫早」はこのままで良い。色々もってきて混乱するだけ。サブにメインをおく。⑪の「希望と安心・住みやすいまちを目指して」より「希望と安心・住みよいまち」で良いのでは。

(委員)

⑤の「ひとが主役」というところに、ぱっと驚くというかこれが良いなと思っております。サブタイトルについては、⑦が良いと思っている。

(委員)

サブタイトル無しだったら①、商売をしており息子が3人おり現在帰ってきて頑張ってくれている。若い人達がいろんな諫早市のことを想像して、いろんな意見を言って新しい諫早を考えてくれる意味でも創造都市とは良いかなと思う。サブタイトルをつけるとしたら、皆さんがパッとシンプルにわかりやすいと言うことでしたら、いろんな事件があっており、若いお母さん方も安心して暮らせるまちというのが一番メインとなってくる。安心して暮らせるまちに人は寄ってくることから⑨が良い。

(委員)

いろんな意見を聞いて、どれも良いと思う。すばらしいものばかりであり、これについていけるのかと思う。私は入り口の小長井であるが、いろんな行事の際人達を動かしていくことがなかなかうまくいかない。大きな会議になると、いろんな意見があると思うのだが、そういうのをしていかないと先に進めない。素晴らしいタイトルが出来たら、それに沿って一人ひとりが協力して良い方向にいければ良いと思う。世間では、思いもよらないことがあるので、三つ子の魂なんとかと言いますが、最初の教育というか育ち方の基礎をしてもらったら先につながる。

(委員)

⑧ですが「希望と安心・笑顔あふれるふるさとづくり」とあるが「希望と安心 笑顔あふれるまち」が良い。

(委員)

今まで10年間やってきた取り組みを活かすという意味で「ひとが輝く創造都市・諫早」は残した方が良い。残したうえで今後10年間にどんなものに重点を置くかとのことでサブタイトルをつけた⑧が良い。笑顔あふれるに全て凝縮されている。安心して住めると笑顔も出てくるし、希望もあると笑顔が出てくるので⑧が良い。

(委員)

だいたい総合計画の将来都市像というのは、会長が言ったように理念的になっていくものと思う。諫早の置かれている状況というか、これからの10年という時に非常に重要なひとつである。若い人達が減少していく最大の課題がある。それをどう克服していくかを政策の中とこれからの将来像の中に組み込むことは必要だろうと思う。⑥の「住みやすさ全国一を目指すまち」というのは非常にわかりやすいものと思う。ただ、どちらかという行動計画を作る際のスローガンとしては良いのかなと思うが、総合計画の将来像のまちとしては、ちょっと違うかなと感じはある。これまでの10年間の総合計画の総括ということもあるのですが、ただ正直に言うとサブタイトルは必要なのかなと、総合計画でサブタイトルがついた分をあまり見たことがない。これからの10年の諫早の課題を解決していく姿勢を示すうえでも、サブタイトルをつけるというのは有だと思う。

若い人、はっきり言えばうちの学生達が、諫早ってこういうところなんだな、だったら住んでみようかなと思うようなものが入る必要がある。そういうことでいくと似たり寄ったりなんです、サブタイトル的に甲乙つけ難い。希望と安心若い人が来たらそうだよねと。だからもう少しぐっとくるものが必要。そ

うしないと結局諫早の人口も年齢層の構成こそ変えてやらないといけない。総合計画の中でもう少し反映できるようなことがあっても良いかなと気がする。

それとあともう一つは今後行政の中での基本姿勢としてどういうものを盛り込んでいくか。そういう意味では、もちろん住民が主体的になってまちづくりに関わっていくということも重要なところなんです。最近いろんなところで出始めているのが地方創生の流れの中で出てきているのが、経済的な自立を目指す方向性が出ている。住民だけではなく、行政も含めて産業も含めて自立していくことが必要なのかなあということを見ていくと⑦かなと思う。若い人が安心して子育て出来て、行政も含めて自立していくという活性化を目指していく姿勢がなんとなく見える。

(委員)

行政の立場として非常に言いにくい。前回言わせていただいたんですがまちづくりは、人が希望を持ってイキイキと生きるようなまちづくりをやっていくんだと。市民が主役ということも大事。ひとが主役なんだけども輝く必要がある。そのようなことから行くと「ひとが輝く創造都市・諫早」が都市像としては良いのではないかなと思う。サブタイトルでは「希望と安心・住みよいまち」とか「あふれるまち」とかあるが、⑨の「だれもが安心して暮らせるまち」というのもこれから先、子供を育てるにおいても安心して育てられる。支え合いのまちというようなことでいくと⑨でも良いのでは。

(会長)

一通り行きましたが、さらに一言との方はどうですか。

(委員)

資料を配られて、今ようやく目を通しているのですが、先ほど⑨が良いなと思いい発言したのですが、皆様のご意見を伺った時に、後の資料2の6ページの基本政策とか目標とかありますね。この中で多様な地域資源やサブタイトルでいう安心して暮らせるまちが基本政策で謳われている。そうしますとわたくしが先程言いましたようにくどくなくて良いと言ったんですが逆にくどかったかなと。後の政策がきちんと控えて、基本的に具体的に進む内容になっているのに、一番メインの大きなところにそれを謳っていくと二重になってしまう。ですので①だけでスッキリしていいのではないかなと。サブタイトルとなると皆さんからいろんな意見が出てくる。個人の思いが出てくる。

(会長)

将来都市像は一発で目に入るものですから。その次に興味がある方は基本政策となるが、なかなか一般の市民の目にはつきにくいとの点もある。先ほどどな

たかがキャッチコピーとおっしゃったが、そういう意味ではサブタイトルを入れておいたほうが良いのかなどの気がする。

(委員)

「ひとが輝く創造都市・諫早」がこのまま10年間でまた続くとのことになると、宇都の看板もそのまま、また諫早はなんも変わらんことになるんじゃないかなあと私は危惧している。せめてサブタイトル「希望と安心・笑顔あふれるまちを目指して」、「ふるさとづくり」のどちらでも良いんですけども。ちょっとひねって「まちを目指して」というのも良いのでは。笑顔は捨て難い。

(会長)

ほぼ皆さんの意見が出尽くしたようです。人が輝くという意見が皆さん出てまいりましたけれども創造都市がわかりにくいとのことで、検討するにあたっての考え方P4の⑧を見てください。新たな魅力や価値、活力を生み出す意味合いがある。難しい言葉で言えば革新、イノベーションというか、新たなものを常に前に進んで生み出して行く。創造的な活力あるまちづくりにつながるのではと思う。

(委員)

将来都市像ですから「人が輝く創造都市」というのは10年やっていてサブタイトルをつけるのは賛成です。ただサブタイトルの中で皆さんが先程から言っているとおり長いとか短いとか、ありふれたとかキャッチコピーがどう問うかが重要な話である。そのターゲットをどの辺りの年齢層にするのかが一番重要ではないかと。教育も高校までは充実しているが、大学となると外に出て行く学生が多い、それをいかに帰ってこらすかが一番重要なことではないか。そのなかでサブタイトルをどうするかで、あまり長くても良くないし、ちょっとわかりやすいということであれば⑦～⑨の間の「誰もが安心して暮らせるまち」というのは、非常にわかりやすいんですけども、どこでも使われているような内容ではないかと気がしている。「希望と安心・自立する」か「創生する」がどうかと気がしているが、目指してはならないのではと気がします。(⑦)

(会長)

目指してを消すとのことでよいでしょうか。

(委員)

はい。



(会長)

だいたい皆様方のご意見では、将来都市像のメインタイトルは「人が輝く創造都市・諫早」でほぼ皆様方OKではというふうに理解しています。サブタイトルにつきましては、⑦⑧⑨をほぼ拮抗している、そのなかでも⑧がちょっと大きかった気がします。従いまして、メインタイトルは「人が輝く創造都市・諫早」といたしまして、⑦⑧⑨については、会長の預かりということにはいきませんか。いろいろ事務局とも相談しながらサブタイトルを3つの中からつけることでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なしとの声、多数有。

(会長)

ご承認いただけましたら、皆さんの大きな拍手をお願いします。

(各委員)

拍手多数

(会長)

それではそのように進めて行きたいと思います。続きまして、基本目標、基本政策、それから施策のほうに移ります。事務局の説明をお願いいたします。

(事務局)

～事前配付の資料No. 2により、諫早市総合計画の体系図(案)の基本目標、基本政策、施策について説明～

(委員)

一番上の、輝く人づくりでいくと、いきなり「妊娠・出産・子育て」となっているが、男女の出会いというのがその前にあるべきなので、そこをどういうふうに課題としてやらなければいけない。男女が出会って、産み育てていく、そのところがどうも抜けているのでは。

(事務局)

婚活の部分については、魅力あるまちづくりの快適なまちづくりの中に多様な地域づくりの推進とあるが、そこの中に婚活部分は入っているので、出会いの場というのは、こちらの部分で対応することになる。

(委員)

最初にこないといけないのでは。私はそう思う。

(会長)

施策の大項目としてあげてはどうかとのこと。

(事務局)

検討させていただきたい。

(会長)

次回までをお願いしたい。それで良いか。

(委員)

はい。

(委員)

シートNo.9の活力あるしごとづくりの最後、地域資源を活かした観光・物産のところで、道の駅を作るとの話があったが、具体的にどこか進んでいるのか。目標として挙げられているのか。諫早では無いようだが。

(事務局)

道の駅だが、具体的に何処に作るとか、作ることが決まったわけではない。まちづくり懇談会とか、いろんな意見を聞く中で諫早にも道の駅がほしいよねとの意見が多々あったので、そういうものについて検討してみたいということ。建設場所とかについては、未定である。

(委員)

ここに謳うということは、もしそのような話が起こったら、支援をしていくとのことなのか。

(事務局)

今後10年間の計画なので、そういう意見が出てきた際には、支援をしていきたいということである。

(委員)

非常に良いことではないか。物産の振興にも、観光にもつながるし、ここらへんでは大村にも無い。南島原の、みずなし本陣ぐらい。東彼にもある。あんまりない、結構観光地には、いっぱいある。ぜひ諫早にも作っていただきたい。

(会長)

地域の小規模事業者にとっては、発表の場、販売の場なんですね。非常に良いことだと思う。より大きいものを造ってほしい。

(委員)

さらに強調してだが、今マスコミとかメディアでも、道の駅が取りあげられている。次はどこにいこうかとしているなかで、近隣の小さいまちが出来ているのに、諫早で出来ていないというのが、それだけ諫早が劣っているのと思うのが先程言われた、地盤沈下しているとの意味でないかと思う。新たに計画してするのではなく、今からでも動き出して誰かが、GOサインを出しながら、宣伝を始めるくらいのことでやっていかないと、3年も4年も遅れている。遅れているのをこれからがんばって今からしますと具体的に出してほしい。

(会長)

重要な項目として二重丸をつけておくなど、できるだけ早く。

(委員)

諫早の3つの海の話は、しょっちゅう聞く。3つの海の産物を同時にやるようなことをどこかやっていないか。3海市みたいなもの。

(委員)

3海祭りを行っている。

(委員)

バラバラで、どこが何かわからない、3つの海の市があっても良いのでは。

(会長)

そういう意味でも、道の駅に海産物を、地域の特産品というのを挙げていただく。

(委員)

3つの海は世界自然遺産に匹敵するような価値があると思っている。ただ、言うだけで、具体的なものはつながっていない。

(会長)

小規模事業者は特産品の良いものを持っているが展示の場が無い。それをコツコツ自分で作って出品して買っていただく。非常に必要だと思う。

(事務局)

まず道の駅については、過去から計画をしている場所もございましたけれども、ハードの面については、国の補助事業とかである程度は整備できるのだが、そこを運営していく運営主体が決まらないようなことで、決定ができていないという分もある。例えば小長井の方でも、地域審議会では、小長井ドームと共に、道の駅をとというふうなお話もありますし、高来町の方でもそういう話がある。ただ、そこを運営していくのが大きな問題。これから、3つの海の産物につきましては、3海海鮮祭りというのを、3つの漁協において、持ち回りで行っており、今年は小長井町で海鮮祭りをを行うようにしている。だんだん規模的には大きくなっているので、海のものだけ、小長井で言えば牡蠣とか。物の販売は1日だけ、期日を限定してですが、それを常設するとなると、やはり道の駅になろうかと思う。

(会長)

各地域に小さいものを造るより、やはり大きいところに各地域から持ってきて出品できるものを造らないといけない。人が寄るところは一か所なので。何か所も行かない。主体については、今後真剣に検討していく

(委員)

先程の婚活の話も出ていましたし、企業誘致して人口を増やす、Uターンして働く場所の締結することで、諫早市へ帰ってくるのお話があった。諫早というまちは、県央の中心地になる。とっても便利なところで、長崎市からも2、30分できますし、大村もそうです。生活するいろんな面からしてよくなると、住むのは外に住んでしまうのが出てくる。ですから誘致するにしても、婚活をするにしても、諫早に住んでもらうためのいろんな施策というのを打って出ないと生活がしやすい便利なところに、皆さんが住居を構えてしまう。そこを含めたところで、色んな施策を考えていただければと思う。

(会長)

転入して来る人に魅力があるようなまちづくりを、基本に広報していく必要があると思う。

(委員)

全体的に見ると、支援とか充実とか、育成とか具体的に何をするとか、この下についているのかもしれないけど、選挙の時に出るような感じになってもらってはいけないのではと。よく商工業者が言われるのですけれども、調整区域をなんとかしないからそうなったと、ようは他所に家を建てるということは他所が安いからであると。諫早には調整区域があるのになんで、或いはもうちょっと

となんとかならないのかと、今やられているのは知っている。もうちょっとこれを拡大してもらって、土地代が安くなるようにしていくことが一つの人が住むということに関しては、そういう意味合いがあるのでは。多分市役所の方でも、1割、2割の方は大村に住んで通われている。どこの職場も同じであると思う。諫早で働いているけど、住まいは大村よと人が結構おられる。そこらへんをもう少し具体的に切り込んで、どれくらいまではしてみようとかチャレンジしていかないと、やっぱり未来は開けないと思います。

(委員)

施策の中の、事業の中に行政が主導となるものが多いと思うが、市民が中心となり、市民が率先してやっ払いこうとする事業は入っているか。

(会長)

各事業を、項目もこの会には、ある程度提出させるんですか。

(事務局)

総合計画の審議会とのことであるが、計画としましてはこの施策までをお願いしたい。住むところを広げるとか、土地規制の緩和を今行っている。そういうのを含めてご意見をいただき事業に反映をさせていきたいと考えている。

(会長)

今の委員の質問だが、市民主体のソフト中心の事業が大事ではないかとのことである。

(事務局)

各部局調整中の資料を持ってきているが、その中で市民が中心となってといますが、具体的にどれとは、見つけきれないが、市民の方にやっていただくものを支援するとかそういう事業が入ってくるかと思う。市民が中心だと言われたものを行政がここに挙げるよりも市民の方を支援する考え方でいこうかと思う。

(委員)

施策なんですけども、地域毎、ブロック毎にどういうことをやるのか、重点的に調べられているのか。この地域はこういうことを重点的にするとか。

(事務局)

各部局と事業の調整をするという段階である。各部局においては例えば水産業の振興という、だいたい小長井地域とか飯盛地域、有喜地域ということにな

る。この地域にこれということではなく、諫早市全体でどういう事業をしていくか、その事業が例えば、牡蠣のブランド化、華蓮のブランド化となれば小長井地域に限定した事業になるとの組み立てになる。地域を特定してどうこうではなく、事業が何処に該当するかどうかの組み立てになる。

(会長)

今の委員の意見は、選択と集中とのことだが、エリアを絞って集中的に効果があるような投資をしていくという視点が必要だなということだと思う。

(事務局)

事業の組み立てとしては、そのような視点も必要かと思う。

(会長)

計画実現に向けた基本姿勢というのは、市民目線とか開かれた行政とかこれは当然と思うが、その横に色々書いてあるけども。一番大事なのは、ずっと委員から挙がってきている、広報活動の必要性、広報活動の充実である。これが諫早はちょっと遅れている。まずいのではないかとあるが、広報の充実とのことについて、基本姿勢に挙げたらどうか。例えばこれから、転入の人を呼び込むにしてもこういうものがありますので、諫早に来ませんかとの広報活動が必要だ。そういうメニューを並べてPRを、パブリックリレーションをやらないと、またマーケティングをやらないといけない。広報活動が最優先だと思うがいかがか。

(事務局)

今の事務局案では、広報活動の充実の中で、シティプロモーションの展開としているけども、今のご意見を受けて施策としてひとつ挙げてみるとのことを検討してみたいと思う。

(委員)

広報活動ということですが、県のホームページでもUターンとか、戻ってくる際に何パーセントか補助をして、戻ってくるとか、たとえば引っ越し費用とか具体的にそういうのを夜の番組で長崎県のホームページとかで少し出てきた。それも良い案かなと。なるべく諫早から出たものが、戻って来て地元で生活して結婚して、子どもを産み育てるというのは、何か後押しができるような引っ越し費用の何パーセントの補助をする。それが諫早出身である。在住であるという具体的な施策があれば、後押しがあればきっかけができればと思う。

(委員)

10年間の計画だが、だいたい5年ぐらいで見直しがある。今までの物足りないと思っている分については重点プロジェクトなどの目玉の政策である枠組みを作っていないからと思う。いろんな町の基本構想、基本計画を作っているけども、その中に重点プロジェクトを入れてくる。横断的に行政の縦割りの中では無くて、子育て支援でもそうですけど、色んな部局が集まって総合的にやっていくというようなことのプロジェクトを作らないと行けない。いかがでしょうか。また、先程から言われている住みやすさ全国一を目指すまちもそうだが、プロジェクトを作って5年間集中して作っていく。そういうものを作っていく。諫早市の輝く理念と重点プロジェクトを推進していきますよと、するとわかりやすくなる。ひとづくり、しごとづくり、まちづくり、どれも全般的に諫早が今後5年間目玉としてやっていくか、人口を増加させていく、実際数値目標を作っており施策となっていくんだけど、プロジェクトというような重点施策を重点的に何を行うのかをもう少しすると、観光振興であれば、観光〇〇〇プロジェクトその後に、道の駅が出てくるような作り方をするともう少しわかりやすい。

(会長)

重点プロジェクト、重点施策に対する重点プロジェクト、横断的な一つの課題に対してのトータルソリューションの場を作って具体的に進めてはどうかというお話と思うんですが、重点施策を進める上で非常に大事なことであり、また、市民目線にしても非常にわかりやすい作り方だと思う。この点についてはいかがか。

(事務局)

今、頂いていますご意見につきましては、確かにいろんな施策なりを網羅しているとの段階であります。5年間重点的に取り組む政策をからめてこれを重点プロジェクトとして打ち出したらどうかのご意見とかと思いますので、総合計画の表し方について検討してみたい。

(委員)

情報発信で諫早のCMビデオを作ってはどうかと思います。市民と行政が一緒になってCMを作る。諫早ここですよ、こんなところですよ、諫早良いところ、住み良いところみたいな、CMを作ってPRしてはどうか。牡蠣を選定したり、おもしろいCMビデオを作成してはどうかと考えました。

(委員)

前々回の先生の話聞いた際に、行政が広報しても一過性であってあまり役に

たたないというか、忘れてしまう存在になるので、出来るだけメディアに載るようにとのことで、いろんなアンテナを張っていたら良いかなと。例えば来年の4月に長崎県のアンテナショップが出来ますよね。そういうものも含めて、私が考えているのは、いろんな施策の予算を組むとお金がかかり、限られているので、私の案としては、ふるさと納税のお金を全部福祉にまわすとかインパクトのあることをテレビ局とか新聞に流せば、たぶん載せてくれることじゃないかなと。だれもがしたくないようなことをしないと、なかなかいけない。道の駅が一番簡単なメディアに載る方法なんで、押しているんですけども。テレビに載るとか新聞に載るとかを知っていただきたい。松浦とか佐世保とか大村とか、けっこう載っている。諫早は市長さんが何処へ行ったぐらいしか載っていない。それも大事ですけどもインパクトが無い。インパクトのあるような考え方を持つ分を集めていろんな意見を戦わせてやっていただければと思う。

(会長)

先程の話も広報活動とのことだが、メディアに載せる方法を考える、話題性も作って、その話題性のなかにもメディアに取材してもらうものを作る。インターネットも大事、ふるさと納税はインターネットを見て申し込んでいるのだから、広報活動は諫早が一番良いとのところを充実、研究してください。

(委員)

高齢者の立場から一言お願いします。諫早市の暮らしのガイドブックの発行がございました。我がまち辞典これを事業所と共同で発行された。年を取った人は情報をどこから得るか、インターネットとかなんだと言いますが、そういうことはしないですよ。だからまず情報誌を出したりとか、高齢者向けの相談窓口はどこにしたらよいかなど、わかりやすいような方法を図書でも何でも良いので、新しい言葉が出て来てみたり、新聞も取らない人が多い、そういうなかでも生活している高齢者が多い、一人暮らしだったり、高齢者同士であったり誰に相談をしたらよいか、どこのを聞いたらよいか身近なことで困っている方が多い、その中で市が作られた暮らしのガイドは非常に良いなあと思言わせていただいた。

(事務局)

高齢者のみではなく、例えば防災についてもスピーカーで放送する、携帯に入る、テレビでいく、ケーブルで行く、FMでいく形でいくつかの情報伝達の方法を考えている。それと同じような形で高齢者、そしてお子さんを育てられているお母さん達、学生、そういう情報をいくつかの方法で伝えていくことが必要である。市報を見てくださいますとのことにもなりますけど、市報はあんまり見ないテレビが良いとか、FMラジオが良いのではないかと、そういう伝達の



方法はいくつかの方法を持っておくべきだとのことのご意見だと思いますので、検討しながら進めてまいりたい。

(委員)

ふるさと納税の話が出ましたが、ふるさと納税に参加してどんな調子ですか。調子が良いと聞いていますけども、どうなんですか。県内ではどれくらい何番目とか。どれくらいの量がきているとか。教えてもらいたい。

(事務局)

ふるさと納税は昨年まで積極的といいますが、返品はございませんでしたけれども、今年度4月から少し積極的に行こうとのことでやっております。ふるさと納税の額も昨年と比べますとかなり、増えていると聞いておりますけども県内で何番目とかいうところまでは、資料を持ち合わせておりません。もし必要とのことであれば、今回の会議のときにでもお知らせする。

(委員)

教えていただきたい。

(会長)

次回までに、基本目標、基本政策、施策を事務局の方で修正をしていただき、取りまとめていただきたいと思います。今回は、またこうゆう形でさらに内容を深めてまいりますので、ご準備をお願いしたい。

(事務局)

今回は10月21日水曜日でございますけども、午後に予定しております。

(会長)

本日の議事は以上でございます。議事の進行に御協力をいただきまして、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

(事務局)

今回の審議会では、基本目標、基本政策、施策を御説明しましたけども、今回いただきました御意見を取りまとめまして、次回改めて皆様からの御意見を入れて取りまとめを行う予定としております。

以上をもちまして諫早市総合計画審議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

～閉会～